

令和元年度 園芸研究所主要課題現地検討会  
『トルコギキョウ（ユーストマ）の年内出しの品種特性』の開催

今年度、園芸研究所は全日本花卉品種審査会の会場担当となり、トルコギキョウ（ユーストマ）の年内出し品種について、栽培試験を実施しました。年内出しは、8月の高温期の定植、そして低温・低日照時期に出荷する難しい作型になるため、品種選定が重要となってくる作型です。11月22日に種苗メーカーと関係する公設試による品種審査が終了したので、その内容と実際の品種の草姿を県内生産者に紹介するため、11月29日、主要課題現地検討会『トルコギキョウの年内出しの品種特性について』を開催しました。当日は生産者13名、普及・農協等関係機関13名の計26名の出席がありました。

栽培試験は23品種を供試し、そのうち品種審査会で入賞したものは、スノースマイル（福花園）、SM5-103M（サカタのタネ）、F16-390（住化農業資材）、オーブイエロー（サカタのタネ）などで、上位入賞品種は生産者にも高評価でした。また、入賞に至らなくとも、花色や花形がよい品種、蕾の枯死が少ない品種について、生産者の関心が集まりました。

試験研究への要望として、「品種選定に参考になるので、もっと多くの品種で栽培試験をしてほしい」、「燃油節約のため、栽培期間を7～10日でも短縮する方法を開発してほしい」、「暑さ対策や、蕾の枯死を回避する方法を研究してほしい」などの意見が出されました。トルコギキョウ栽培における課題解決と今後の試験研究推進に向け、有意義な検討会になりました。



室内検討



圃場検討